

## ディレクトフォースについて

初日のディレクトフォースでは、これから私たちがどう生きていくべきなのか、世界中で今どのような問題が起こっていて、それによりどのような人材が必要とされているのか、そういったことについて深く学ぶことができました。□国際機関を目指す諸君に□という題のもと行われた元国際エネルギー機関事務局長の田中伸男氏による講演では、ヨーロッパで集团的エネルギー安全保障の実現が目指されているということを知りました。この集团的エネルギー安全保障とは、どこかの国が災害などにより国内が電力不足に陥った際に、周囲の国々が電力を分け与えることにより、いざというときにも国民の生活を保障しようというものです。この実現のために、EU を中心としてヨーロッパ全土で周波数の統一がなされているそうです。こういった考えは、災害大国である日本にとっても、とても重要なことです。被災後、様々な災害に対して現地では必死の復旧活動が行われます。しかし、島国である日本では必要な物資を外国から補給するのに時間がかかってしまい、どうしても活動が滞ってしまいます。2010年に起きた東日本大震災ではそれが顕著にあらわれていました。そういったことから、実際にソフトバンクの社長である孫氏がアジアで電力面での助け合いを唱えているように、グローバル社会の今、周囲の国々と良好な友好関係を築き、連携を深めていくことがより大切になってくると考えました。また、日本が現在電力の80%以上を火力発電に依存している中、石油の価格をめぐって、国際エネルギー機関とOPECが対立していることも知りました。そんな中、田中氏は事務局長として、OPECの方々と上手くお付き合いをし、石油の将来を見通すため、数々の努力をされてきたそうです。互いの利益を守りつつ、且つ最善の結論を導き出すためのよい人間関係を築くことの大切さも改めて感じました。次に笹川平和財団の四人の方々に海外での自身の経験についてお話をいただきました。1人目は、笹川平和財団で造船関連の調査研究、海洋管理、国際協力プロジェクトの担当をされている酒井さんでした。彼は大学を卒業するまで将来の目標を持っていなかったそうです。しかしヨットの魅力に引かれて海洋関係の仕事を目指したとき、学生るとき興味があっても生物や地理を熱心に勉強していたお陰でいまの仕事につけたそうです。このお話から私は改めて勉強をすることの大切さを感じました。いま私は航空関係の仕事につきたいと何となく考えていますが、いつこの目標が変わるかわかりません。その時夢を断念しないでいいような下積み、これを積んでおくことはとても大切なことです。この事を肝に免じてこれからは日頃の勉強により熱心に取り組んでいきたいです。2人目はNGOグループを立ち上げ、移民難民コミュニティーの社会統合生活支援活動を担当されている林さんでした。彼女は世界から戦争を取り除くための取り組みについて私たちに説明してくださいました。自国の平和だけでなく世界全体の平和を考えることが大切だ、そんな信念のもと活動している彼女をとってもかっこいいなと思いました。3人目は三井物産シニア、プロジェクトマネージャーとして世界を飛び回っている越川さんでした。彼は「チームを運営していくなかで重要なことは自分の中でしっかりと意思をもって発言すること、また相手の意見をしっかりと受けとることである」とおっしゃっていました。またそれらを外国人と行うため、高い英語表現力が必要になってくるので、学生のうちは英語だけは怠ってはいけな、というお話もされていました。私自身、世界中の様々な考え方をを持った様々な民族の人々とかかわってみたい、そう感じているので、

彼の話にはとても共感できました。最後 4 人目は三菱信託銀行に入社し、ニューヨーク、ロンドン、チューリッヒ、ロサンゼルスなどに駐在された石川さんでした。彼もまた、そのお話の中で私に勉強することの大切さを伝えてくださいました。これから世界という大きな舞台で活動するとき、異なる文化、人種、宗教を持った人々とかかわることになるわけですが、そのような人と上手く仕事をやっていくには、彼らのことをよく知る必要があるらしいのです。また彼はグローバル社会を生きていく上で、他の人と良好な関係を持つためのコミュニケーション能力、時代の流れを読む能力、自分の中で明確な夢を持ち、それを大切にすることの3つがもっとも大切だとおっしゃっていました。

この4人の方々にかがったお話をいかして自分の視野を広げ、生きていきたいと感じました。

### 企業訪問について

私達は JAXA の相模原キャンパスにお邪魔してきました。企業訪問では、僕の興味のある、航空宇宙科学について深く学ぶことができました。今回の訪問で、実際に現在開発途中で今度打ち上げ予定である人工衛星、こうのとりに見せていただいたり、実験施設などを見せていただくなかで、とても遠い存在に感じていた宇宙が、少し身近に感じられました。それと同時に、ロケット研究の歴史や初号機のエンジンなどを見せていただいたことで、先人達の限りない宇宙への夢と希望、憧れを改めて感じ、敬意さえも覚えました。航空宇宙科学は主に宇宙科学と航空科学とに分類されるらしいのですが、僕はこれまでどちらかと言えばロケットや衛星などを研究する宇宙科学よりも、飛行機のようなものを研究する航空科学に興味がありましたが今回の訪問で前者の学問にも興味を持てるようになりました。今 JAXA の相模原キャンパスで開発途中の温室効果ガス観測衛星 2 号などは、これからの私たちの生活に大きく関わってくるものです。今回教えていただいたことも生かしながら、こういった研究にも注目していきたいと思います。またこのキャンパスでは、JAXA と宇宙センター、宇宙科学研究所が共同で高校生を対象にした研究体験型の教育プログラムを実施しています。このプログラムは「自ら考え、自ら決定し、自ら作業する」をモットーとしています。研究者は、人から教わるのではなく自らの発想をベースに、自ら考え、自ら決定し、自ら作業しています。どんな答えが出るかやってみるまでわからない、そういう課題に挑戦する科学研究の楽しさをここでは感じとることができます。また、実際にチームで1つのミッションを作り上げていくためにはチームワークがとても大切です。皆で力を合わせて、1つのミッションに取り組む、これもまた JAXA の研究者の方々が日々行われていることです。集まった仲間とコミュニケーションをとりチームワークを深める、こういった経験を積むことで将来の糧にしてほしい。プログラムの企画担当の方はこうおっしゃっていました。私達は少しの間この活動を見学させていただきましたが、そこでは人類の月面移住計画、他の惑星からのエネルギー供給など、夢のある熱い議論が交わされていました。なんとこの企画相模原キャンパスではなく別の場所でも行われているらしいので、近くに来たときは是非参加してみたいです。

### OBOG 座談会について

私達は東京の大学に進学された OB・OG の方々と座談会をさせていただきました。そのなかで、こんなお話をされた先輩がいらっしゃいました。「この地球上にはもうほぼ未開発の地域はない。どんなに小さ

な島でも、ジャングルの奥地でも誰かしらはすでに足を踏み入れている。僕は人類がまだ足を踏み入れたことのない地へ行ってみたいと思って、宇宙工学科に入ったんだよ。宇宙は地球よりもずっと大きくてロマンがあるからね。」と。自分の夢をしっかりと持ち、私たち後輩に語ってくれる姿は非常にかっこよかったです。私もこの先輩のように自分のやりたいことを胸を張って他人に伝えられるようになりたいと、心からそう思いました。そのためにも、海外の世界を知るための手段となる英語と世界の人々のことを知るための社会科の2つを特に頑張っていきたいと思います。また別の先輩は「偏差値・難易度が高い」という理由で進学先を決めない方がよい、とおっしゃっていました。その先輩はもともと単に一番難しいという理由で東京大学を目指していたらしいのですが、多くの大学を調べていくうちに、東京医科歯科大学の方が一人の生徒にかけるお金の金額が高かったり、付属病院に多くの人に来て、学生に与えられる治療の機会が多かったりすることが分かったそうです。私はこの話を聞いてドキッとしました。私もこれまではなんとなく「東北大学」という志望がありました。しかし東北大学へ行って何をしたいのか、他の大学ではそれはできないのか、よく考えてはいませんでした。この話を聞いて改めて、自分のしたいことを明確にし、なぜその大学を選ぶのかをはっきりさせることが大切なのだと分かりました。OBOGの方々のお話はどれもためになるものばかりでした。

最後に、いま文章に表したことを忘れず、今回の研修での経験をこれからの僕の人生の糧にできるように、しっかりと胸に刻みたいです。